

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 多文化共生社会をめざす会

1. 事業名称

対話で地域活性をめざす日本語教育総合事業

2. 事業の目的

- ・ 外国人児童生徒支援との連携で、外国人保護者を日本語教室に受け入れる体制づくり。
- ・ 相互理解をめざした対話型日本語教育の推進。
- ・ 生活や仕事、子育て、子どもの教育に関するテーマで対話することで生活者としての外国人の課題を引き出す。
- ・ 外国人が理解しやすい「やさしいにほんご」を、地域の日本人と外国人と一緒に考え多文化共生への意識を高める。
- ・ 日本語教室とやさしい日本語講座の成果を交流イベント等で効果的に発揮させる。
- ・ IT機器を利用した多目的に活用できる日本語教育活動記録アプリの開発。

3. 事業内容の概要

<取組1 / 外国人保護者につながる日本語教育体制検討委員会>

外国人の保護者に日本語学習を呼びかけるために、子ども支援者や関連する機関と共にその方略を探る。課題解決のための企画立案の手法としてPCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）を活用する。

<取組2 / 対話型日本語教室>

いつからでも気軽に参加でき、生活や子育て、子どもの教育などについてのおしゃべりを通して自然に日本語が習得でき、当事者同士の考えの持ち寄りで課題解決も図れる日本語教室を設置。

<取組3 / やさしいにほんご講座>

外国人に理解されやすい「やさしい日本語」を日本人が外国人と共に探る。また、その成果が交流イベントなどで効果的に発揮されるにはどうしたらいいかを検討する委員会も設置。

<取組4 / 日本語教室活動記録データベースアプリ開発>

タブレット端末を使用したアプリケーションを開発し、活動の様子を効率よく記録・分析・閲覧できるようにする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催時間	時間数	場所	出席者	議題
1	平成25年8月24日 14:00-16:00	2	佐鳴台協働 センター	山田国明、近藤知子、横内美保子、松岡真理恵、小林芽里、北村祐人、石井由貢	実施内容の説明、 協力の依頼

	<p>▼プログラムBを選んだ理由：子ども支援の併設やアプリ開発などの体制整備のため。▼浜松市内の日本語教室の状況：今年度も文化庁事業の採択団体が非常に多い。棲み分け、特色を持つことが大事。</p> <p>▼2012年度の活動の報告：市の補助金事業でのびのびと様々な講座を実施できた。▼2013年度の文化庁2次募集の申請に至る経緯：市内は文化庁事業の申請が集中していたため、他事業での実施を模索していたが、日本語教育での実施となると他事業での申請は難しかった。▼今年度の文化庁事業内容の説明：取組1～4。▼文化庁事業と並行して実施する他事業との連携の説明：子ども支援教室を併設。▼次回委員会の開催日検討：中間報告の場を設けたかったが、委員の都合が合わなかった。2次募集は実施期間が短いため、中間報告の場を置きにくい。委員には随時近況を伝え、ブログなどでも詳細に日々の活動を伝え、個別に相談などもすることにした。</p>				
2	平成26年3月9日 12:00-14:00	2	佐鳴台協働 センター	山田国明、近藤知子、横内美保子、松岡真理恵、小林芽里、北村祐人	実施内容の報告・意見交換、総評、今後の展望
	<p>▼各取組の結果報告：▽取組1＝今後の教室の企画案が立てられた。子ども支援に関して学校との連携は課題。▽取組2＝外国人スタッフの起用は参加者が安心して来られる環境づくりに功を奏した。工場の増産体制で参加者の暮らしが一変し、教室に通うのが困難になった学習者も多く参加者は低迷した。▽取組3＝市内の多文化関連のイベントが毎週のようにあり参加者募集が難しかった。人数は多くはなかったものの、市内外、県外からの参加があり、学生から年配の方々まで幅広い層が参加。外国人と日本人と一緒にやさしい日本語について考える場がくれた。▽取組4＝開発委員会を組織、他団体の関係者の意見を取り入れることができた。アプリ開発は今後の団体のウリとしては将来性がある。▼2014年度の文化庁事業の申請を見送った経緯説明：家庭や仕事の都合で担当できるスタッフが少なくなること、今の学習者数の規模からすると、規模を縮小して様子を見るべきと判断。委員からは2次募集があれば検討してもよいのではとの声も。▼委員からの総評・アドバイス：▽採算を考えながら無理せず継続できる道を探してほしい。助成金情報などの提供で協力できる。▽対話型教室として純粋にやってきたなかでは決して参加者数は悪くない。方法論の模索としては一段落ついたのでは。Can-do やポートフォリオ評価などの分野で協力できる。▽他事業を含めて取組みが多かったのは確か。子ども支援を並行して実施したのは結果として良かった。もっと地域の外国人に知ってもらう必要がある。▽やさしい日本語講座は外国人と日本人の接触場面を考えたテーマでできそう。</p>				

5. 取組みについての報告

○取組1：外国人保護者につながる日本語教育体制検討委員会

(1) 体制整備に向けた取組みの目標

- ・ 外国人児童生徒の保護者層が日本語教室や地域住民との交流イベントに参加する流れをつくる。
- ・ 地域の外国人児童生徒支援の関係者に日本語教室や交流イベントの情報が知られるようになり、そういった参加を通して子どもの教育に関する情報を得る機会を増やす。
- ・ PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）の手法を参考にして地域の課題解決を企画立案する事例をつくる。

(2) 取組内容

- ・ 日本語教室が子どもの保護者と地域社会との橋渡しとなるような魅力ある場となるための方策を検討する。
- ・ 保護者が子どものために日本語を学び、情報を得るための教室づくりを検討する。

- ・ 企画立案の手法であるPCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）を参考にして、分析から計画までを本プロジェクトスタッフや外国人を含む地域の子ども支援者と共に検討する。
- ・ PCMの進行役・モデレーターはこの地域の中間支援組織の多文化共生担当者に依頼。
- ・ 問題分析の回は公開とし、委員以外にも主に外国人住民の参加者を募り、ワークショップ形式で地域の課題をより広い視点からとらえ、多方面から意見を出し合った。

（３）対象者

- ・ 委員：本団体の内外・国籍を問わず、地域で外国人子ども支援をしてきたひと。
- ・ 一般参加者：外国人住民。

（４）参加者の総数

- ・ 委員：8人（日本5、ブラジル2、フィリピン1）
- ・ 一般参加者：8人（ブラジル1、フィリピン6、ペルー1）

（５）開催時間数

1回2時間×全9回＝計18時間

（６）取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	委員氏名	
1	平成25年9月18日(水) 14:00-16:00	2時間	佐鳴台協働センター	委員6人 + 一般1人	委員=日4、ブ2、一般=ブ1	委員会の趣旨説明	委員会の主旨を説明、進行手段としてPCM(プロジェクトサイクルマネジメント)を導入すること、またこの手法説明。ステップ1「関係者分析」を行い、外国人の子供の教育関係者の現状を分析した。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢、 花岡クリスチーナ
2	平成25年9月19日(木) 10:00-12:00	2時間	佐鳴台協働センター	委員6人	委員=日4、ブ2	PCM手法ステップ2「問題分析」	外国人の子供が抱える問題を抽出し、中心問題を決定、それを引き起こす主な原因、その結果の関係を整理し、樹形図を作成した。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢、 花岡クリスチーナ
3	平成25年9月20日(金) 10:00-12:00	2時間	佐鳴台協働センター	委員6人	委員=日4、ブ2	PCM手法ステップ3「目的分析」	外国人の子供が抱える問題が解決された将来の望ましい状態と、その状態に導くための手段と目的の関係を分かりやすく樹形図にまとめた。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢、 花岡クリスチーナ
4	平成25年10月8日(火) 14:00-16:00	2時間	佐鳴台協働センター	委員5人 + 一般1人	委員=日4、ブ1、一般=ブ1	活動地域(佐鳴台地域)に置く支援体制	佐鳴台地域における子ども支援体制、週末の大人対象日本語教室の現状について分析し、今後の支援体制のあり方を検討した。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢

5	平成 25 年 10 月 9 日 (水) 14:00-16:00	2 時 間	佐鳴台 協働セ ンター	委員 5 人	委員= 日 4、ブ 1	PCM 手法ス テップ 4 「プロジェ クトの選 択」	目的分析で作成した樹形図を 見ながら、「高校生対象」「学齢 超過および中退者対象」「保護 者対象」「母語教室」という 4 つの方向性を見だし、各々を 比較・検討して実現するプロジ ェクトを選択した。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢
6	平成 25 年 10 月 17 日 (木) 13:00-15:00	2 時 間	佐鳴台 協働セ ンター	委員 5 人	委員= 日 4、ブ 1	PCM 手法ス テップ 5 「PDM の作 成」	PDM (プロジェクトデザインマ トリックス)、プロジェクトの 概念構成を 1 枚の表にまとめ た概要表の作成。	小林芽里 (進行役)	山田国明、 近藤知子、 小杉利枝、 石井由貢
7	平成 25 年 10 月 29 日 (火) 10:00-12:00	2 時 間	佐鳴台 協働セ ンター	委員 3 人	委員= 日 3	PCM 手法ス テップ 6 「企画案作 成」	これまでに PCM 手法を用いて行 った分析とその結果から選択 したプロジェクト「外国人の子 供の母語支援」「外国人主婦層 のための対話型日本語教室」に ついて具体的な企画案作成を 行った。	山田国明 (進行役)	近藤知子、 小杉利枝
8	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 13:30-15:30	2 時 間	佐鳴台 協働セ ンター	委員 3 人 + 一般 8 人	委員= 日 3、一 般=フ ィ 6 人、 ペ 1 人、 ブ 1 人	外国人住民 と考える問 題分析	地域で生活する外国人に生活 を振り返ってもらい、自分自身 や周囲の抱える問題について 考えた。可能な限り PCM 手法を 取り入れ、会話の中で出てきた キーワードを付せんに記入し 樹形図を完成させた。	山田国明 (進行役)	近藤知子、 小杉利枝
9	平成 25 年 2 月 18 日 (火) 14:00-16:00	2 時 間	佐鳴台 協働セ ンター	委員 5 人	委員= 日 4、フ ィ 1 人	今年度の活 動の振り返 りと来年度 の活動方針	今年度の活動中心スタッフで 「子ども支援」「大人支援 (日 本語教室)」について振り返り を行った上で、改善点について 検討。これまでに立てた企画案 を踏まえ、来年度の活動に向け た内容を再確認した。	山田国明 (進行役)	近藤知子、 小杉利枝、 マナーズ秀 子、牧野リ ナ

(取組 1 に関するブログ記事一覧：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-01>)

(7) 参加者の募集方法

- ・ 取組 2 の日本語教室で外国人参加者に呼びかけ。
- ・ facebook を使って普段教室に来ていない外国人に呼びかけ。
- ・ 運営委員を通じて一般の参加者に呼びかけ。

(8) 特徴的な授業風景

■外国人保護者につながる日本語教育体制検討委員会 第1回

日時：2013年9月18日（水）14：00～16：00 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/09/18/5585>

1. 委員会の主旨確認

地域の外国人児童、生徒をとりまく様々な問題について検討し、これまでの経験を生かしてより良い子供支援のあり方を考える。

子どもに関する問題を扱う上で無視できない保護者の抱える問題についても同時に考え、その背景にある保護者の日本語能力の不足を解消するために、地域の日本語教室への橋渡しとして機能する可能性を探る。結果として保護者が日本語教室や地域の交流会の情報を得て、それらに参加する流れが生まれることを目的とする。

2. 委員会の進め方/PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）の説明

PCMハンドブックを使い、手法の説明。モデレータは小林。ステップ1「関係者分析」～ステップ5 PDM「プロジェクト概要表」までを具体的に行う。

3. 関係者分析

浜松市地域における子ども支援のプロジェクトを想定して関係者を列挙、付せんに書いていく（ステークホルダー：実施者、出資者、受益者、協力者、類似団体）。

受益者は国籍別に状況が異なることが予想されたため、本団体に関係の深いブラジル、フィリピン、ペルー国籍の子供、保護者の特性、強み・弱みについて詳細に分析した。

大学まで進学する子どもがいる一方、学校の勉強に学力がついていかず落ちこぼれてしまう子どもも多い。保護者も安定した職を得て家を所有する人達はあるのに対し、安定した職を得られず生活面も苦しい人も、といった具合に二極化して格差が拡大している点に気付く。



■外国人保護者につながる日本語教育体制検討委員会 第6回

日時：2013年10月17日（木）13：00～15：00 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/10/17/6621>

PDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス）作成

PDMとはプロジェクト計画の概念的構成を一枚の表にまとめた概要表。プロジェクトの目標、成果、活動、投入、リスクなどの情報を4×4のマトリックスに記載。

プロジェクト①『母語支援教室』

上位目標に「学力向上」を置く。

母語を教えらるる教員：できる人を探すだけでなく、研修をする等の人材育成にも取り組む。

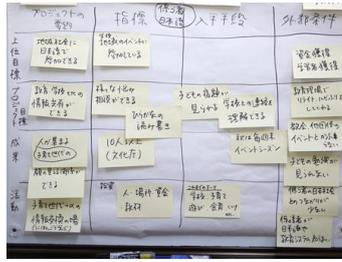
保護者の希望は多いと予測されるが、子どもたち自身が母語に関心をもつことがまず第一。

プロジェクト②『保護者対象の日本語教室』

現状で学習者集めに苦戦しているのは、開催日がイベントとかぶるなど悪条件も要因。

子育てや教育に関する情報交換の場+日本語教室となるような活動形態。

何でも話せる信頼関係づくり。



■外国人保護者につながる日本語教育体制検討委員会 第8回

日時：2013年11月19日（火）13：30～15：30 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/11/19/6595>

委員だけでなく、地域で生活する外国人を招き、自分自身や周りで抱える問題について考えてもらった。まず、最初に生活で困っていることについて自由に話を出してもらい、委員がそれを付せんにも簡単な日本語で書き出した。これらを整理したところ、日本語に関することとそれ以外に分類することができた。これらは、今後の日本語教室のテーマ選びの参考になる。

日本語で困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事：求職時の面接／履歴書の記入／電話で約束ができない／職場で指示が分からない、あるいは難しい／日報が書けない ・ 病院：医師の言うこと／薬の指示が分からない／問診票が書けない ・ 交通：時刻表の見方／バスや電車の乗り方が分からない ・ 手紙：手紙の内容／回覧板が読めない ・ そのほか：買物で表示が読めない／コンピュータの言葉が分からない
日本語以外で困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活：家賃が高い／外国人お断り／トラブルの相談場所／保険が高い／病院の通訳がない／職場での差別／ポルトガル語しかない／（外国人だから）苦情を言われる ・ 子ども：いじめ／日本語や日本のルールがわからない／友達がない／親子のコミュニケーションができない

次に、中心問題を「にほんごがわからない」として、さらに日本語がわからない原因や解決策について話をした（問題分析）。可能な限り PCM の手法に近い形で分析できるよう、委員が補助をして因果関係を引き出し樹形図にしていた。

なぜ日本語が分からないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強しないから←日本語が難しいから ・ 日本のテレビを見ないから←おもしろくないから／地デジのテレビがないから／パソコンで母語の番組が見られから ・ 日本人と話さないから←はずかしいから／家族では母語だから／話さなくても仕事はできるから／日本人の友達がないから
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違えても気にしない／分からないことを聞く／日本語に慣れる／看板や子どもの本を読む／目標を持つ／文法を勉強する／例文を応用して自分のことを発表する

日本語教室の学習者でもある参加者は「勉強している」と実感したいと考え、そのためには目標の設置が必要で、文法解説も適宜してほしいし、それを応用するための練習も活動に求めている。取組2の日本語教室で既に実践中のことでもあるが、より明確に反映させるべきことが分かった。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・ この地域の日本語支援や子ども支援を改めて俯瞰することができた。
- ・ 付せんや模造紙を使った PCM の手法による話し合いの視覚化で、外国人を含む委員や参加者が積極的に企画立案に関わることができた。
- ・ 委員会の内容や、模造紙にまとめた結果は差障りがない範囲でブログで公開してきた。

<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-01>

- ・ 次年度で実施したい外国人の子ども支援と大人支援の企画書をつくることができた。

(10) 改善点について

今回の委員会は中間支援の NPO 職員と外国人子ども支援の元 NPO スタッフなどを交えてできたが、より広い連携先を開拓することが課題。近くの小中学校なども訪問して外国人の子どもたちや保護者の様子などの話を聞くことができたが、外部団体がどのように連携できるのか糸口がつかめなかった。取組 2 の日本語教室で外国人保護者層の日本語教育、親子教室に力を入れていることをアピールしていきたい。また、地域では日本語教育以外での文化交流等での連携も模索していきたい。

○取組 2 : 対話型日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組みの目標

- ・ 参加者同士がお互いのことを知り交流を深め、定期的な交流イベントに参加する。
- ・ 参加者に共通する生活上の課題（子育て、仕事、生活）に対してアイデアや意見を出し合いながら自分たちで解決方法を見つける。

(2) 取組内容

- ・ 相互理解を促すテーマと生活や子育て・子どもの教育に関するテーマを中心に設定。
- ・ ファシリテーターが毎回のテーマについて自分の話をして、参考にすべき語彙や文型を盛り込む。
- ・ 学習者 3～4 人と対話補助者 1 名でグループに分かれ、参加型学習の手法を取り入れた対話活動をする。
- ・ ファシリテーターが対話内容を指示。
- ・ 対話補助者がグループ内で学習者の発話を促し、日本語の誤用に対してはリキャストで対応。話題のキーワードを付せんに書き取る。
- ・ 必要に応じてバイリンガルの外国人補助者も加わり初級者の活動参加を助ける。
- ・ 学習者と対話補助者が付せんに模造紙に貼りながら、話した内容を整理する。

- ・ 模造紙をグループ間で交換し、教室全体で話した内容について共有する。
- ・ 個人用のワークシートにその回で話した内容をまとめ、自己評価をつける。
- ・ 対話補助者がワークシートの内容と対話活動時の観察から日本語学習のポイントを指導する。

(3) 対象者

- ・ 外国人住民。※日本人も希望者は対話参加者として受け入れた。

(4) 参加者の総数

- ・ 外国人：31人（ペルー12、フィリピン11、中国3、ブラジル3、キューバ1、インドネシア1）
- ・ （日本人見学参加：2名）

(5) 開催時間数

1回2時間×全20回＝計40時間

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 8月24日 (土) 10:00- 12:00	2 時 間	佐鳴台協 働センタ ー	5人	ペ2、 フィ3	暑いとき	初回であったため、開始時に教室の説明。暑いときにどうするか、暑さをしのぐためにどんな工夫をしているか、について話して模造紙にまとめた。涼しく過ごすために使うものや暑いときに食べるものの話題が多かった。話した内容を書く作業。	山田 国明	近藤知子、マ ナーズ秀子、 牧野リナ
2	平成25年 8月31日 (土) 10:00- 12:00	2 時 間	佐鳴台協 働センタ ー	8人	ペ2、 フィ5、 イネ1	地震・災 害	9月1日防災の日であったのにちなんでのテーマ。各国の災害にどんなものがあるか、地震に備えて何を準備しているかについて話して模造紙にまとめた。静岡県が作成した『地震災害ガイドブックやさしい日本語版』の紹介。話した内容を書く作業。	山田 国明	近藤知子、牧 野リナ
3	平成25年9 月7日(土) 10:00- 12:00	2 時 間	佐鳴台協 働センタ ー	9人	ペ2、 フィ5、 中1、 イネ1	買物	日常的にどこで、どんなものを買物するかについて話しながら、地図上に店の場所を示し買物マップの作成した。また各国の買物事情についても話し、様々な違いや楽しいエピソードを聞くことができた。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、小 杉利枝、牧野 リナ
4	平成25年9 月14日 (土) 10:00- 12:00	2 時 間	佐鳴台協 働センタ ー	5人	ペ2、 フィ2、 中1	子どもと いっしょ に行くこ ろ	子どもといっしょに行くところ、また子どもの頃よく連れて行ってもらったところについて。この夏休みのことも話した。また子どもとお出かけするときの持ち物について話し、便利グッズの情報交換もして模造紙にまとめた。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、横 内美保子、牧 野リナ
5	平成25年 10月5日 (土) 10:00-	2 時 間	佐鳴台協 働センタ ー	7人	ペ4、 フィ2、 中1	ごみ	家が出るゴミにはどんなものがあるか具体的に30個挙げ付せんに書き出した。それらを浜松市のゴミの分別に従って分類しながらの対話活動。また各国や各家のゴミ事情についても	山田 国明	マナーズ秀 子、牧野リナ

	12:00						話した。話した内容を書く作業。		
6	平成 25 年 10 月 12 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	7 人	ペ 4、 フィ 2、 中 1	家事／家 の仕事	家事、いえのしごとにはどんなものか挙げて、その好き嫌いについてまず話した。その後、家事を早くやったり、楽にするためにしている工夫について話し、主婦のための役立つ情報を交換した。話した内容を書く作業。	近藤 知子	小杉利枝、山 本ヘレン
7	平成 25 年 1 1 月 2 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	8 人	ペ 2、 フィ 3、 中 1、 ブ 2	子育て	子どもが多いと良いこと、悪いことについてあげ昨今の少子化問題について考えたあと、自らの子育てについて「だれが」「どこで」「どんなふう」に「して」いて、大変な事、楽しい事、困っている事について話して模造紙にまとめた。話した内容を書く作業。	近藤 知子	マナーズ秀 子、小杉利 枝、八重田ア ナベル
8	平成 25 年 1 1 月 9 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	8 人	ペ 2、 フィ 3、 ブ 3	健康	自分や家族の健康状態について悪いところや病気があればその症状、対応、原因などについて話したあと、日頃から病気予防、健康維持のため何をしているか、どんなことをしたいかについて話して模造紙にまとめた。話した内容を書く作業。	マナ ーズ 秀子	山田国明、近 藤知子、山本 ヘレン
9	平成 25 年 1 1 月 16 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	8 人	ペ 3、 フィ 3、 ブ 2	たべもの (食育)	各自、前日の夕食について栄養的バランスがどうであったかを五大栄養素表を参考にしながら分析、その後、普段食事で気をつけていること、誰とどのように食事をするかなどについて話した。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子、 山本ヘレン
1 0	平成 25 年 1 1 月 30 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	6 人	ペ 3、 フィ 3	こどもの 遊び	子どものころにした遊びについて話した。グループ分けを国別にしたので、年齢も近い学習者同士懐かしい話で盛り上がった。その後、現在の子どもがする遊びを挙げて、今昔の比較をした。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子
1 1	平成 25 年 12 月 7 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	5 人	ペ 4、 フィ 1	アパート を探す	どんなアパートに住みたいかについて話した。その後実際に佐鳴台周辺の物件情報を見ながら、1人で暮らす場合、子どものいる家族で暮らす場合にどれがよいか選び、その理由についても話した。話した内容を書く作業。	山田 国明	近藤知子、マ ナーズ秀子、 牧野リナ
1 2	平成 25 年 12 月 14 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	イオン浜 松西店	5 人	ペ 4、 フィ 1	買物	イオン浜松西店食品・家庭用品売り場で、ファシリテータの買物リストにある品物を探し、数ある商品の中からどれを、どのような基準で選ぶかチェックリストを埋めながら話した。最後に互いの物を比較した。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子、 牧野リナ
1 3	平成 25 年 1 月 19 日 (土) 10:00- 12:00	2 時間	佐鳴台協 働センタ ー	5 人	ペ 3、 フィ 2	寒いとき	寒いときにどんな服装をするかについて話し、衣服の着脱表現について確認。次に寒いときに何を食べるかについて話したあと、最近ノロウイルスに関する母語別情報を配布、消毒液の作り方の実演もした。話した内容を書く作業。	山田 国明	城山有希
1 4	平成 25 年 1 月 26 日	2 時	佐鳴台協 働センタ	6 人	ペ 4、 フィ 2	ストレス	何がストレスか (原因)、ストレスからどうなるか (症状) について話した。最近仕事を始め	近藤 知子	マナーズ秀 子、城山有

	(日) 10:00- 12:00	間 一					てストレスが溜まっている人もいて大いに盛り上がった。後半はそうしたストレスの解消方法についても話して模造紙にまとめた。話した内容を書く作業。		希、牧野リナ
1 5	平成25年2 月2日(日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	7人	ペ4、 フィ3	子どもの しつけ (ほめ 方、しか り方)	アイスブレイクで「グループ内のひとのよいところ」を挙げて、そこから「ほめること」につなげた。子どもをほめる事に関しては日本人よりずっと感情的・直接的である事が知れる会話内容だった。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子、 牧野リナ
1 6	平成25年2 月9日(日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	6人	ペ3、 フィ1、 中2	節約	各自に電気、ガス、携帯電話について月々どのくらい使うかを聞いたあとに、その他毎月どんなことにお金を使っているかを挙げた。その後、これらについてどうしたら節約できるかについて話して模造紙にまとめた。話した内容を書く作業。	山田 国明	近藤知子、城 山有希、牧野 リナ
1 7	平成25年2 月16日 (日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	5人	ペ3、 中1、 キュ1	学校、子 どもの勉 強	各国の学校制度の違い、学年、教科、時間割などの比較をし、好き/嫌いだった教科について話した。後半は学齢の子供を持つ保護者でもある学習者の進学相談など。母語の進学ガイドブックを配布。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子
1 8	平成25年2 月23日 (日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	5人	ペ2、 フィ1、 中2	仕事	どこでどんな仕事をしたか、しているかについてエピソードも踏まえながら話した。その後自分の仕事のよいところと大変なところを挙げてもらうことで、各自の仕事内容についてより掘り下げた話ができる。話した内容を書く作業。	山田 国明	城山有希
1 9	平成25年3 月2日(日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	5人	ペ2、 フィ1、 中1、 キュ1	おとなに なるまで	各国の成人年齢を比較した後、生まれてから成人までの行事やイベントについて話した。後半はこうした子どもの頃の思い出をどんな形で残しているかについて具体的に話し、様々なエピソードが聞けた。話した内容を書く作業。	近藤 知子	山田国明、マ ナーズ秀子、 小杉利枝、牧 野リナ
2 0	平成25年3 月16日 (日) 10:00- 12:00	2 時 間 一	佐鳴台協 働センタ	6人	ペ2、 フィ2、 中2	これから のこと	成人後の行事やイベントについて話し、各国の比較をした後、これからの人生について「心配なこと」「楽しみなこと」について話した。心配なのは子どものこと、楽しみは旅行や暮らしたい場所が多く挙げた。話した内容を書く作業。	マナ ーズ 秀子	山田国明、近 藤知子、牧野 リナ

(取組2に関するブログ記事一覧：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-02>)

(7) 参加者の募集方法

- ・ 団地など地域内にてチラシのポスティング。
- ・ 外国人スタッフ、学習者に声かけを依頼（ロコミ）。
- ・ facebook 投稿による毎回の内容告知。それを外国人スタッフが「いいね」や「シェア」。
- ・ 外国人の店などにチラシの掲示を依頼。
- ・ 国際交流協会の掲示板にチラシの掲示を依頼。

(8) 特徴的な授業風景

■対話型日本語教室 第9回 テーマ「食べもの」

日時：2013年11月16日（土）10:00～12:00 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/11/16/5903>

▼復習プリント、先週の振り返り（10:00-10:20）

新規参加者登録用紙記入。初級者だったので母語の分かる学習者や補助者が手伝って記入。

▼テーマ提示（10:20-10:25）

「たべもの」であることはあえて告げず、前々日の夕飯を紹介。みんなにも思い出して書いてもらうことを指示。

▼活動1（10:25-10:55）

各自でワークシート「きのうのよる、なにをたべましたか」の記入。献立とその材料の一覧表。参加者がほぼ全員初級者でひらがなを書くのも表を見ながらという人も多く、予想以上に時間がかかったが、そのあとの活動にも使用するシートであったため時間を割いた。ワークシートの記入後、内容についてグループ内で話し、一番「良い献立」を選ぶように指示。グループ2では書く作業が多く会話が途絶えがちであったが、書き上がったシートを見ながら互いにチェックしあい会話が生まれた。各グループの一番良い献立の人に内容を言ってもらい、共有活動。

▼活動2（10:55-11:20）

「食育」の説明。漢字の分かる学習者がいなかったが、ホワイトボードに「食べる」「教育」と漢字表記で意味の説明をし、学習者の母語に訳した。「五大栄養素」の参考資料を配布し、これを見ながら活動1の表、材料の横に「エネルギーになる食品＝黄色」「体をつくる食品＝赤」「体の調子を整える食品＝緑」のシールを貼る作業をまずやってもらい、自らの食事のバランスを知る。そこから普段、食事で気をつけていることや誰とどんな雰囲気食べるか、などについて会話。食の部分については活発に発話があったが、「育」の部分では学習者達の意識の薄さが見られた。栄養素ごとにシールを貼る作業は、新規の学習者もやる事が分かった時点で意欲を見せて参加でき、よかった。

▼共有2（11:20-11:45）

付せんを分類して模造紙に貼り、模造紙を交換。時間の関係で？印のみとし、その内容について話題を提供した人に説明してもらった。料理名や食材で説明が難しいものについては、パソコンの画像を利用した。どのグループも食材名や調理法など基本語彙が多く並び、学習者のレベルが反映されていた。

▼まとめシート記入（11:45-12:00）

設問は今後「気をつけたいこと」より、現状を説明するより簡単な「気をつけていること」のほうが良かった。次週のテーマ予告。

▼補助者振り返り

G1：学習者ふたりが初対面であったため、母語でもいいので2人の会話が成立するように促した。テーマとは関係なくても質問にはできるだけ答え、メモする時間も待つようにした。

G2：「～をしています」「～にきをつけています」等の今日のポイントとなる表現を緑の付せんに書き表示した。

G3：意味の補充説明が初級者に十分できなかった。食べ物そのものの話がメインで、個人のエピソードはほとんど引き出せなかった。

▼ファシリテーター振り返り

全員が「家庭の食」を支える主婦であり良いテーマであったと思うが、内容的に「食育」というほど深く掘り下げた話ができなかった。学習者のレベルにもよるが、やり方を工夫すればもっとエピソードや食に関する考えも引き出せるかもしれない。特に子どもの食事に関してはもっとみんなに関心を持って欲しいところなので、再度機会があれば取りあげたい。



■対話型日本語教室 第11回 テーマ「アパートを探す」

日時：2013年12月7日（土）10：00～12：00 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/12/07/5983>

▼復習、先週の振り返り（10:00-10:20）

補助者についてワークシートの記入。

▼テーマ提示（10:20-10:30）

アパート、マンションなどの言葉を写真と共に説明。ファシリテーターがどんなアパートに住みたいかポイントを絞って例示。板書で「アパート」を修飾する言葉として写真なども貼りながら「安い／ガスコンロが使える／佐鳴台にある」を書いた。

▼活動1（10:30-10:45）

どんなアパートに住みたいですか。という問いかけで、先ほどの板書を参考に「(どんな) + アパート・マンションに住みたいです」の形式の「(どんな)」の部分を考えてもらった。補助者が話を聞き取って「(どんな)」部分を付せんに書き取った。2つのグループを見て回り、少しバリエーションを足せるかもしれないものは足してみた（～に近いアパートという観点など）。現在のアパートの不満な点についても話げできたよう。

▼共有1（10:45-11:05）

後半の時間を確保するために模造紙は交換せずにそのまま特徴的な部分を補助者に紹介してもらった。街がいいか、静かないなか・郊外がいいか人それぞれの好みも分かれた。

▼活動2（11:05-11:20）

活動1であがったことを踏まえて、佐鳴台とその周辺に実際にあるアパートの物件情報を配った。2つの場合に分けてどのアパートが良いかを選んでもらった。一つは、一人で暮らす場合、もう一つは夫婦と小学生の子どもがいる場合で考えてもらった。

▼共有2（11:20-11:25）

どのアパートを選んだかを比較したが、2つのグループで全く違う結果になった。とにかく安くてそこそこの物件を選ぶという考えに偏ると思いきや、独りならばお金もかからないので贅沢な所に住みたいという考えもあった。また、引っ越すと子どもが学校を変えなければいけないという考えもあった。

▼まとめシート記入（11:25-12:00）

項目は1つに絞って作った。どんなアパートに住みたいかを、活動で出たことを中心に思い出して書いてもらった。項目がはっきりしていたため、割と書きやすかったのでは。自己評価は複雑にすると内容を理解するのが難しいので、以前のように聞いて分かったか／話せたかの2点だけに簡略化する形式に戻した。来週の予告。

▼補助者振り返り

G1：母語での会話が良かったが、子どものことを考えた共通の話題で盛り上がっていた。○さんはまとめを全てひらがなで頑張って書いた。○さんは少しずつ聞き取れたり理解できる単語も出てきたそう。

G2：フィリピン人の○さんのグループにペルーの方が入ったことでタガログ語のみで話さず、日本語を話そうという姿勢が見られた。○さんは、提示した文型と語彙を組み合わせで形容詞を並列

する文（～くて～）を作ることができた。

▼ファシリテーター振り返り

今回の活動を考える際に心がけたのは、活動1で活動で使う言葉の基本をつくり、活動2でそれを活用できることと、みんなで共有する仕掛けを通して対話を進めることの2点だった。初級者にはまだまだ最初の説明が難しく改善の余地はあったが、間取りの図などを目で見ても、家賃の金額などの数字を考え、現実に関心を持って想像して活動ができた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・ 団体として活動の拠点を佐鳴台に移したと同時に教室がスタートしたが、主なターゲットとして想定していた同地区に住む主婦層が代わる代わる休みながらではあるもののレギュラーとして定着してくれた。
- ・ 教室開始当初は不安がないように学習者のグループ分けを国で分けていたが、家庭や生活、子育て、仕事など共通して関心のあるテーマで徐々に国を混ぜて一緒にお互いのことを話すことができ、参加者が楽しいと感じる場づくりができた。
- ・ これまで日本人とあまり話したことがなかった人が継続して参加することができ、日本語で話す勇気がついたり、少しずつ日本語で言っていることが分かるようになってきた。
- ・ これまで本団体に学習者として関わってきた外国人のなかで、日本語能力試験N2合格者やN2相当の日本語能力を持つ人たちをスタッフとして起用。対話活動の補助者としては外国人が話題に参加することを助け、初級者の理解を促すことができた。保育係としても学習者と同じ国の外国人スタッフに依頼し、子育てや小学校低学年の外国人児童支援に携わっている経験を活かしてもらった。また、外国人スタッフはfacebook やロコミで参加の呼びかけをしたり学習者と一緒に教室に来るなどして学習者の継続参加に貢献した。
- ・ 学習者の継続参加には、並行して別事業で実施していた外国人児童生徒の学習支援が功を奏した。浜松市内では少ない親子で通える教室として良い事例をつくることができた。
- ・ 対話活動は初級者対応が課題だったが、外国人やバイリンガルの日本人補助者がグループ内に入って母語サポートをしたことと、テーマ提示などで文法的なポイントに注目できる板書をしたり、前の週の復習にはごく簡単な問題をつくって解いてもらうなどして、学習面を強化した。
- ・ ほぼ全回の活動の様子をブログサイトに掲載した (<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-02>)。写真入りでその回で話したことをまとめた模造紙の画像も見られる。取組4で作成したアプリにも、活動事例として本取組の内容をいくつか収録した。

(10) 改善点について

- ・ スタッフの数が足りず、少ない人数でそれぞれに負担が増した。人材の確保が必要。
- ・ 活動についての振り返りはポイントを明確にして団体内のメーリングリストなどで共有してきたが、教室実施以外にも他の取組がたくさんあり、十分なミーティングの場を設定できなかった。今後は余裕を持ったスケジュールを組む必要がある。
- ・ 学習者の自己評価、振り返りが効果的にまだできていない。改良が必要である。
- ・ 主婦層を主なターゲットとしてきたが、子どもがいなかったり既に大きくなっている家庭もあり、今後は幅広いテーマに広げていく必要もある。仕事や生活の難しい問題（保険や法律、制度など）についての要望が多かったので、十分な準備をして対応していきたい。
- ・ 外国人スタッフによる対話の補助は初めての試みだったこともあり、技術的な面では十分な検証ができていない。単に通訳をするのではなく、必要最低限の母語サポートで学習者になるべく日本語で理解してもらい、日本語を引き出す工夫について日本人スタッフと検討を重ねていく必要がある。

○取組3：やさしい日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組みの目標

- ・ やさしい日本語について学ぶことで、参加者に日本語が十分でない在住外国人とも日本語を通じて交流することができることを知ってもらい、実際にそうしたコミュニケーションを経験してもらう。
- ・ やさしい日本語への言い換え事例を集め、リストなどを作成して、コミュニケーションのためのやさしい日本語の普及に貢献する。

(2) 取組内容

- ・ 個々のおしゃべり活動を振り返ることで、やさしい日本語を意識化し、やさしい日本語にシフトする具体的な方策を学ぶ。
 - ▽ 実際のおしゃべり活動で日本語が通じなかった場面を振り返り、その原因を探って、よりやさしい日本語を考える。
 - ▽ 過去のおしゃべり活動におけるキーワードを検証する。
- ・ いくつかのテーマを選び、それらのテーマでおしゃべり活動をするときに必要となるキーワードや表現を想定し、それらについてさまざまレベルでのやさしい日本語を考える。
- ・ 日本人と外国人との接触場面で頻度の高い重要な語句について、日本語のレベル別に言い換え例、例示例、その他の方策を考える。
- ・ 交流イベントやものづくり講座を開催し、そこで自然なコミュニケーションの実践をする。
 - ▽ イベントは市の補助金事業で開催し、料理づくりや工芸など体を使いながら自然なコミュニケーションを図ることができるものを企画する。
 - ▽ 講座で学んだことがイベントでの実践で有効に活かされるには、イベントにどのような工夫が必要か、委員会を設けて検討する。
 - ▽ 本取組みでやさしい日本語を習得した参加者に参加してもらい、自然なコミュニケーションの実践に役立ててもらおう。

(3) 対象者

- ・ 地域に暮らす一般の日本人と外国人。
- ・ ボランティアなどで外国人に接することが多い日本人など。

(4) 参加者の総数

<講座>

- ・ 日本人：16人
- ・ 外国人：13人（ペルー7、フィリピン4、アメリカ1、中国1）

<委員会>

- ・ 委員：日本人4人、フィリピン人1人
- ・ 委員以外の交流会スタッフ：フィリピン1人、ペルー3人

(5) 開催時間数

講座：1回2時間×全3回＝計40時間

委員会：1回1.5時間×全2回＝計3時間

(6) 取組の具体的内容

<講座>

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月28日 10:30-12:30	2時間	佐鳴台協働センター	14人 ↓ 日本人6 外国人8	日6、 フィ3、 ペ3、 ブ1、 米1	苦手な事	テーマ提示の後、前半はグループごとに対話活動。苦手なことについて話した。補助者は日本人や日本語がよく話せる外国人が話した難しそうな言葉や表現を付せんに記入。次に、初級者を含めた外国人が実際は理解していなかった言葉などにシール（レベルごとに違う色）を貼り、理解してもらうにはどうしたらよいか対処法をグループ内で検討し模造紙にまとめた。後半は全体で模造紙の内容をグループ間で発表し合い、「やさしい日本語」のあり方について講義を行った。	横内美保子	山田国明、近藤知子、マナーズ秀子、八重田アナベル、永井ジュディス
2	平成25年12月21日 10:00-12:00	2時間	佐鳴台協働センター	14人 ↓ 日本人10 外国人4	日14、 ペ4	自己紹介	テーマ提示の後、前半はグループごとに対話活動。参加者それぞれに、「私は…」で始まる3つのことを話してもらい、うち1つに嘘の話にし、嘘がどれかを見破るアクティビティーを行った。補助者は日本人や日本語がよく話せる外国人が話した難しそうな言葉や表現を付せんに記入。次に、初級者を含めた外国人が実際は理解していなかった言葉などにシール（レベルごとに違う色）を貼り、理解してもらうにはどうしたらよいか対処法をグループ内で検討し模造紙にまとめた。後半は全体で模造紙の内容をグループ間で発表し合い、「やさしい日本語」のあり方について講義	横内美保子	山田国明、近藤知子、マナーズ秀子、牧野リナ

							を行った。		
3	平成26年3月9日 10:00-12:00	2時間	佐鳴台協働センター	11人 ↓ 日本人5 外国人6	フィリピン2、ペルー1、中1	料理	テーマ提示の後、前半はグループごとに対話活動。好きな料理や元気が出る食べ物について話した。補助者は日本人や日本語がよく話せる外国人が話した難しそうな言葉や表現を付せんに入力。次に、初級者を含めた外国人が実際は理解していなかった言葉などにシールを貼り、理解してもらうにはどうしたらよいか対処法をグループ内で検討し模造紙にまとめた。後半は全体で模造紙の内容をグループ間で発表し合い、「やさしい日本語」のあり方について講義を行った。	横内美保子	山田国明、近藤知子、マナーズ秀子、牧野リナ

(取組3に関するブログ記事一覧：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-03>)

<委員会>

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	委員
1	平成26年2月27日 14:30-16:30	2時間	佐鳴台協働センター	委員4人	委員=日本4	年末の交流会とやさしい日本語講座の連携について反省	やさしい日本語講座や対話型日本語教室の成果を交流会に活かしたかを話し合った。講座と交流会は同じ日で事前の準備も十分でなく活かしたとは言えない。3月16日の交流会のためにどうすべきかを検討。	山田国明、近藤知子、小杉利枝、マナーズ秀子、牧野リナ
2	平成26年3月2日 12:00-13:30	1.5時間	佐鳴台協働センター	委員5人、交流会参加予定者(学習者など)	委員=日本4、フィリピン4、交流参加予定者=ペルー3、フィリピン1	交流会で日本語学習を活かす方法について	前回の委員会に引き続き、交流会のために学びをどう活かすかを話し合った。フィリピン、ペルーの学習者が多くなか、どのようにしてお互いが日本語を自然に使う状況をつくるか。料理のレシピをやさしい日本語で書いて配布するなどの提案が出た。	山田国明、近藤知子、小杉利枝、マナーズ秀子、牧野リナ

(7) 参加者の募集方法

- ・ 浜松市国際交流協会の情報誌に募集情報を掲載。
- ・ 浜松市国際交流協会の掲示板にチラシを掲示。
- ・ 会場周辺地区でチラシをポスティング。
- ・ ブログサイトで取組の紹介と募集情報を掲載。
- ・ facebook でチラシを投稿。

(8) 特徴的な授業風景

<p>■やさしい日本語講座 第2回 テーマ「自己紹介」</p> <p>日時：2013年12月21日(土) 10:00~12:00 場所：佐鳴台協働センター</p> <p>ブログ記事：http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/12/21/6072</p>
--

▼手順の説明

講師から今回の講座について説明をした。

▼テーマ提示

ファシリテーターが写真などを見せながら「私は…」で始まる3つの文で自己紹介をした。しかし、そのうち1つはウソであることを紹介した。これを参考にしてもらい、グループ内で参加者一人一人が3つの文を考え、みんなで話し合うなかでウソを見破るという活動内容を指示。

▼対話活動

3つのテーブルに分かれ、日本人受講者と外国人参加者がテーマにそって、自由におしゃべり活動をした。補助者はおしゃべりの中で難しいと思われた言葉や表現を随時、クリーム色の付せんにひらがなで書き取った。

G 1（グループ1）：日本人受講者はおしゃべり活動の未経験者。外国人参加者は日本語上級者。
G 2：日本人受講者はおしゃべり活動あるいは日本語ボランティア活動の経験者。外国人参加者は日本語初級者で、工夫すればなんとか会話が成立するレベル。G 3：日本人受講者はおしゃべり活動の経験はあるが、やさしい日本語は得意ではないよう。外国人参加者は二人ともほとんど日本語がしゃべれない人たちで、補助者が母語対応。

▼付せんの整理

補助者が書いた付せんをみて、外国人参加者が難しくてわからないものにシールを貼った。今回はG 1は青、G 2は黄色、G 3は赤のシールを用いた。ただし、G 1の外国人参加者には、もっと日本語レベルの低い参加者だったらわからないであろうものも考えてもらい、それらには赤のシールを貼ってもらった。シールが貼られなかった付せんは除き、シールの貼られた付せんのみ、検討の対象にした。

▼対処法の検討

日本人・外国人参加者が一緒に話し合いながら、残った付せんに書かれた日本語が、どのようにしたらわかりやすくなるか考え、対処法を青い付せんに書いた。次に、皆で考えた対処法でわかりやすくなったか外国人参加者に確認した。確認がとれたら、対処法を書いた青い付せんをはじめに難しい日本語を書いたクリーム色の付せんの下に貼っていった。講師は各テーブルの様子をみてまわり、外国人参加者の母語で話す日本人受講者にできるだけ日本語で話すように伝えたり、全員の話し合いが滞っているグループに皆で話し合うよう言ったりして、適宜、ファシリテートした。

▼カテゴリイズ

グループ毎にカテゴリイズの基準を考えた。決めた基準にしたがって、付せんを模造紙に貼っていった。▽G 1の分類基準は〈例を挙げる〉、〈言い換える〉、〈図をかく〉の三つ。G 2とG 3の基準は同じで、〈例を挙げる〉、〈言い換える〉、〈説明〉の三つ。3グループとも似通っているのは、まずG 1が分類を終えホワイトボードに模造紙を貼ったのだが、それを他のグループが参考にしたためと思われる。

この活動の後、G 2とG 3の外国人参加者は同じテーブルに集まり、補助者1名とともにおしゃべり活動を再開した。G 1の外国人参加者は日本語レベルが高く、活動を続けたいという意思があったため、そのまま日本人受講者と共に最後までこの活動に参加した。

▼発表・意見交換・講師による説明

各グループの代表者（日本人受講者）が順番に対処法を発表した。発表グループは他のグループの質問に答え、意見交換した。その際、講師は随時、質問を投げかけたり、コメントを述べたりし、

受講者の気づきを促した。

G 1 が<例を挙げる>に分類したのは、「うらやましい」、「スポット」。<言い換える>には、「普段」、「経験」、「これはこれでいい」、「されていますか」（尊敬語）など。<図をかく>には、「都道府県」、「比率」、「高級」。G 2 が<例を挙げる>に分類したのは、「謡」、「コツ」、「時間帯」など。<言い換える>には「母親」、「正解」、「得意」。<説明>には、「出身」、「実家」、「地元」、「独特」。G 3 が<例を挙げる>に分類したのは、「構成」、「宗教」。<言い換える>には、「体重」、「出場」、「企業」、「勤める」。<説明>には、「女房」、「限定」、「口ごもる」。*ただし、以上は付せんにはすべてひらがなで表記されている。

講師は、各グループの発表を聞き、「一般的に漢語はわかりにくいので避けること」、「多義語は、そのすべての語義を説明する必要はなく、コンテキストにそった意味に即して考えること」、「外国人参加者が初級レベルの場合には、微妙なニュアンスを伝えることは諦め、難しい日本語をやさしい日本語に意識するという方向性で考えること」、「複合語は、分解してそれぞれの意味を示すより、まるごと、他の語に置き換えた方がわかりやすい場合が多いこと」、「説明と例示を組み合わせるとわかりやすいこと」、「辞書的な意味を説明することが目的ではなく、楽しいおしゃべり活動のためにコミュニケーションを成立させることが目的であること」などを提言した。

▼振り返り

振り返りシートに各自、記入した。最後まで活動に参加した外国人の振り返りシートには、「やさしい日本語を考えることはとても勉強になった」という記述がみられた。日本人受講者のシートには、「最初とはにかく説明しようと考えていたが、途中からそれは無理だということがわかり、それが<図をかく>という方向性につながった」、「楽しくおしゃべり活動をするのが目的だということがあらためてわかった」、「いろいろな年代の受講者がいて、貴重な経験ができた」、「意味を正確に伝えることより、相手とのコミュニケーションを第一に考えることが大切だと知り、肩の力が抜けた」、「普段、自分が使っている日本語が外国人にとっては難しいのだということがわかった。また、わかりやすい日本語を使うことが難しいこともわかった」、「時間配分がよかった」、「楽しかった」という記述が見受けられた。一方、「重要な点を箇条書きにしたものがほしい」、「おしゃべり活動で補助者が通訳することが多かったが、必要ないのではないか」という意見も見られた。前者に関しては、当講座の成果として留意点をまとめたものをいずれつくりたいと考えている。後者に関して、当該補助者は、「グループ内に外国人参加者の反応を無視して、難しい日本語で話す受講者がおり、通訳することのデメリットは承知した上で、外国人参加者に配慮して通訳したのであり、致し方なかった」と振り返っている。また、他のグループの補助者は、「グループ内に、学習者の母語を頻繁に使う日本人受講者がいたため、外国人参加者は母語語での説明と他の日本人が使う日本語とで混乱している様子もみられた」と振り返っており、今後、そうした受講者が参加した場合の対処法を考える必要がある。



■やさしい日本語講座 第2回 テーマ「自己紹介」

日時：2013年12月21日（土）10：00～12：00 場所：佐鳴台協働センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2014/03/09/6467>

▼講師から今回の講座について手順の説明。

▼テーマ提示

ファシリテーターから、「元気になる料理・食べ物はなんですか」と問いかけた。例として、まずフィリピンの「ディヌグアン」の写真を見せ、「これはなんですか」とフィリピン人参加者に聞き、料理の名前と肉を豚の血で煮た料理であることを引き出した。次に、餃子の写真を提示。材料を混ぜる前の写真と皮で包んだ後の写真を見せて、トマトを入れることなどを話した。参加者に、「元気になる料理・好きな食べ物について話しましょう」と伝えて対話活動をスタートさせた。

▼対話活動

2つのテーブルに分かれ、日本人受講者と外国人参加者がテーマにそって、自由におしゃべり活動。補助者はおしゃべりの中で難しいと思われた言葉や表現を随時、クリーム色の付せんにひらがなで書き取った。

今回は外国人参加者をレベル別に分けず、異なる日本語レベルの参加者が同グループに混在するようグループ分けを行った。G1：日本人受講者のうち1名は対話型活動の経験者、もう1名は未経験者。外国人参加者のうち2人は日本語上級者、1人は工夫すればなんとか会話が成立するレベル。G2：日本人受講者は全員、対話型活動の経験者、そのうち2人は本講座2回目の受講。外国人参加者のうち、2人は日本語上級者で、1名は語彙や表現などに制限はあるが会話は成立するレベル。

▼付せんの整理

補助者が書いた付せんをみて、外国人参加者が難しくてわからないものに色シールを貼った（赤：なんとか会話が成立するレベルの人が貼るシール、黄：だいたい話せるレベル、青：かなり上手に話せるレベル）。今回はG1は青シール2名、赤シール1名、G2は青シール2名、黄シール1名。▼シールが貼られなかった付せんは除き、シールの貼られた付せんのみ、検討の対象にした。

▼対処法の検討

日本人受講者と外国人参加者が一緒に話し合いながら、残った付せんに書かれた日本語が、どのようにしたらわかりやすくなるか考え、対処法を青い付せんに書いた。次に、皆で考えた対処法でわかりやすくなったか外国人参加者に確認した。確認がとれたら、対処法を書いた青い付せんをはじめに難しい日本語を書いたクリーム色の付せんの下に貼っていった。講師は各テーブルの様子をみてまわったが、どちらのグループもいい雰囲気の前向きに取り組んでいた。この活動の後、G2の初級者は補助者1名とともに別のテーブルに移り、おしゃべり活動を再開した。

▼カテゴリズ

グループ毎にカテゴリズの基準を考えた。決めた基準にしたがって、付せんを模造紙に貼っていった。G1の分類基準は<例を挙げる>、<言い換える>、<絵をかく・写真を見せる>、<反対のものを出し、比較する>、<使う状況を説明する>、<辞書を引く>の6つ。G2の基準は、<例を挙げる>、<言い換える>、<説明する>、<ジェスチャー>の4つ。

▼発表・意見交換・講師による説明

各グループの代表者（日本人受講者）が順番に対処法を発表した。発表グループは他のグループの質問に答え、意見交換した。その際、講師は随時、質問を投げかけたり、コメントを述べたりし、受講者の気づきを促した。

G1が<例を挙げる>に分類したのは、「人気がある」、「一から作る」、「食感」。<言い換える>に分類したのは、「大勢」、「最近」、「家庭料理」など。<絵をかく・写真を見せる>に分類したのは、「炒める」、「ロモ・サルタード」、「ひつまぶし」、「福神漬け」など。<反対のものを出し、比較する>に分類したのは、「変化」、「生焼け」。<使う状況を説明する>に分類したのは、「罰ゲーム」。<辞書を引く>に分類したのは、「もちろん」、「～的に」、「ちなみに」。G2が<例を挙げる>に分類したのは、「調味料」、「加工する」。<言い換える>に分類したのは、「ねばねば」。<説明する>に分類したのは、「完成する」、「煮込む」、「酢漬け」、「圧力鍋」など。<ジェスチャー>に分類したのは「浮く」、「沸騰」、「絞る」。*ただし、以上は付せんにはすべてひらがなで表記されている。

参加者の意見交換では、「オノマトペに言い換えたり、説明したりすることによって、却って難しくなってしまうの

ではないか」などの意見が出された。講師は、各グループの発表や意見交換をふまえ、①「日本語レベルが低い外国人に対しては、難しいことばを使ってからやさしく言い換えたり説明したりするのではなく、始めからやさしい日本語を使おうと意識することが大切である」という方向性を示し、②「言い換えることができないものは何か」について問題提起をし、③「過去2回の本講座の活動から帰納的に導き出された「やさしくない日本語」の類型には、漢語、外来語、オノマトペ、コロケーション、敬語、受身、使役などがあること」を示した。

▼振り返り

口頭で一人ずつ感想や意見を述べた後、振り返りシートに各自、記入した。外国人参加者の振り返りシートには、「笑顔に接することができてよかった」、「日本の文化についてまだまだ学ぶべきことがあることに改めて気付いた。もっと勉強を続けたいという気持ち」という記述が見られた。日本人受講者のシートには、「自分ではやさしい日本語を使っているつもりだったが、思ったより通じていないということがわかった」という記述が4人にみられた。他に、「わかりやすすぎる日本語を使わないようにすること、わかりやすい日本語を使うことを意識したい」、「外国人が日本語を勉強すると同時に、日本人の方でもやさしい日本語を意識して接する必要があることがわかった」、「活動中、外国人参加者の意見がとても参考になった」、「外国人参加者の母語ができる日本人がやさしい日本語ではなく、相手の母語で話していたが、それは課題だと思う」などの記述が見られた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・ 外国人と日本人が共にやさしい日本語について考える新しいワークショップの事例をつくることができた。外国人参加者が、どういった日本語が難しいかを対話の中で訴えるのは難しいが、付せんやシールを使った振り返りの手法が助けとなった。
- ・ 「やさしくない日本語」を外国人参加者の日本語レベル別に抽出することができ、「やさしい日本語」について検討することができた。
- ・ これまで外国人とあまり接点が少なかった人の参加を呼び込むことができ、日本人参加者のやさしい日本語に対する意識を高める上で有益であった。また、対話活動により日本人と外国人参加者双方が楽しむことができた。
- ・ 日本人参加者の気づきとして、外国人に通じていると思っていたことが実際は通じていない場合も多いことや、詳しく説明しすぎるのも場合によってはよくないということが分かったという感想が聞けた。
- ・ よく日本語が話せる外国人参加者も自分の日本語を振り返ることができた。やさしい日本語は、母語や日本語レベルも異なる外国人同士でも重要であることが確かめられた。
- ・ 講座に参加した日本人が別事業で開催した外国人との交流イベントにも参加した。

(10) 改善点について

- ・ 毎回、対話のテーマは変えていたがチラシや参加者募集情報にもテーマを載せるべきだった。

- ・ より多くの市民に呼びかけるために、外国人と日本人の接触場面を想定したより実用的なテーマで実施してみるとよいかもしれない。
- ・ 講座としては1回2時間が適当な長さだが、前半の対話活動が長引くと振り返りの時間が足りなくなる。そうならないためには、参加者から難しそうな日本語を効率よく拾い、検証に結びつける必要がある。ただし、それに重きを置きすぎると楽しい対話活動にならない。時間配分は再検討が必要で、それと同時に進行が遅れた場合に挽回するための臨機応変な工夫も必要。
- ・ 振り返りで終わらず、やさしい日本語について確認したポイントを踏まえて再度対話活動で実践できると良い。
- ・ 外国人参加者は普段日本語教室に来ている学習者なので日本語のレベルは把握できているが、当日来るか事前に分からない。また、新規の日本人参加者がやさしい日本語をどのくらい使えるかは分からない。そのため、最適なグループ分けを決めておくことは難しく、当日の参加者のマッチングが難しい。日本人の申込みにちょっとしたアンケートをつけるべきか要検討。
- ・ 対話活動中に付せん書き出した「やさしくない日本語」が語レベルに留まることが多く、談話レベルでの抽出・分析が難しい。
- ・ 講座後半の分析や考察の段階になると、外国人参加者は日本語のレベルによって負担を感じてしまうことが予想されていた。そこで、特に日本語初級者は講座の途中から別活動（引き続き対話活動をするテーブル）に分かれていく工夫をしたが、できるだけ無理なく残れるよう講座内容を調整していきたい。

○取組4：日本語教室活動記録データベースアプリ開発

(1) 体制整備に向けた取組みの目標

- ・ iPadさえあれば、どの日本語教室でも活用できる活動記録データベースアプリケーションをインターネットで配布できるようにし、広く意見を募って改善を重ねていく。

(2) 取組内容

- ・ 日本語教室の活動内容をさまざまな要素に分けて記録しデータベース化するアプリケーションを作成。
- ・ アプリは教案作成や活動記録、事例集、授業内容の分析、教材など多目的に利用可能。
- ・ 開発委員会を設置し、搭載すべき機能のアイデアを募ったり、改良すべき点について話し合う。
- ・ 開発委員は本団体のメンバーと、とよた日本語学習支援システムの関係者などで構成。関係者の構成から委員会は豊田市で開催。
- ・ 委員会での意見を基に iPad で作動するデータベースを作成。使用ソフトは「Filemaker pro 12」。
- ・ データベースを開くには、無料でダウンロードできる iPad・iPhone 用ソフト「Filemaker Go 12」を使用。アイコンを使用したメニューなどの使いやすいユーザーインターフェイスでアプリケーションとして動作。
- ・ 委員会以外でも細かな意見はメールや電話などで受け付ける。
- ・ 外部のボランティアセミナーのパネル発表やイベントのパネル展示をしたりボランティアの会合などに向き、作成したデータベースを広く紹介。

(3) 対象者

- ・ 委員：とよた日本語学習支援システム関係者、多文化共生社会をめざす会のファシリテーター
- ・ 11月23日：浜松国際交流協会主催のU-ToC文化祭来場者（パネル展示）
- ・ 1月13日：静岡県国際交流協会主催の日本語ボランティアセミナー2014の来場者（パネル発表）
- ・ 2月8日：静岡県東部日本語ボランティアネットワーク参加者（定例会でアプリの説明）

(4) 参加者の総数

- ・ 委員：9人（日本9）
- ・ 外部での発表は人数記載不可。

(5) 開催時間数

2時間×2回＋1回1.5時間×3回＝計8.5時間
 （※夜開催の回は時間を短く1.5時間とした）

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	委員氏名	
1	平成25年8月28日(水) 18:30-20:00	1.5時間	豊田市産業文化センター	7人	日本7	取組の趣旨説明、活動記録の現状	開発の経緯、教室活動の記録の問題について。想定しているアプリの概要。コーディネーターが残している記録はどのようなものか。委員会のスケジュール確認。	山田国明 (開発者)	横内美保子、北村祐人、衣川隆生、土井佳彦、古賀恵美、岩本道子
2	平成25年9月12日(木) 13:00-15:00	2時間	豊田市産業文化センター	9人	日本9	どのようなデータベースがあるとよいか	どんなデータベースがあったらいいか委員からアイデアを発表。方向性の決定。対象はコーディネーターで、対話活動に特化せず幅広い日本語教室活動で使えるものをめざす。	山田国明 (開発者)	近藤知子、横内美保子、北村祐人、衣川隆生、土井佳彦、荻谷太佳子、古賀恵美、岩本道子
3	平成25年11月10日(日) 13:00-15:00	2時間	豊田市産業文化センター	5人	日本5	試作版について意見交換	試作版の説明。実際にiPadを使って委員が動作確認。意見交換：簡略化できる点など改善提案。使い方のマニュアルについて。問題点の確認。	山田国明 (開発者)	近藤知子、横内美保子、衣川隆生、荻谷太佳子
4	平成26年1月28日(火) 19:00-20:30	1.5時間	豊田市産業文化センター	4人	日本4	試作版について意見交換	外部でのパネル発表についての報告。iPadを使って最新版の改良点を紹介。動作確認のうえ細部に渡って委員で意見交換。このアプリの普及、めざすべ	山田国明 (開発者)	横内美保子、衣川隆生、土井佳彦

							き方向性について委員から意見。		
5	平成 26 年 2 月 18 日 (水) 19:00-20:30	1.5 時間	名古屋 大学	5 人	日 本 5	試作版について意見交換	教室活動を実践中のコーディネーターである委員を中心に開催。第 4 回委員会からさらに改良した最新版を WiFi 接続で全員が iPad/iPhone で動作確認。細部に渡って委員で意見交換。操作体系の一貫性、道具や教材の記録に議論が集中。この取組で得たことについて。	山田国明 (開発者)	北村祐人、苅谷太佳子、古賀恵美、岩本道子

(取組 4 に関するブログ記事一覧: <http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/pi0-04>)

(7) 参加者の募集方法

- ・ 委員会は委員のみ。
- ・ 外部でのアプリの説明は、募集への応募や申し出をして機会を得た。

(8) 特徴的な活動風景

■日本語教室活動記録データベースアプリ開発委員会 第 1 回

日時: 2013 年 8 月 28 日 (水) 18:30~20:00 場所: 豊田産業文化センター

ブログ記事: <http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/08/28/6654>

▼開発の経緯

開発者が浜松市の様々な日本語教室を見てきたなかで、問題として感じてきたことを報告。それらがデータベースによって解決できるかもしれないことを説明。

▼取組の概要

- ・ アプリ開発委員会を設置し、搭載すべき機能のアイデアを募ったり、改良すべき点について話し合う。
- ・ 開発委員は多文化共生社会をめざす会関係者と、とよた日本語学習支援システムの関係者などで構成。
- ・ 開発委員会の会場は基本的に豊田市で、4 回程度開催。
- ・ 開発委員会での意見をもとに山田がデータベースを作成し、委員からの意見収集と改良を繰り返す。
- ・ 完成したら発表の場を持つ。

▼想定しているアプリの概要

- ・ 日本語教室の活動内容をさまざまな要素に分けて記録する。
- ・ 使い方次第で学習者もスタッフも使えるものにする。
- ・ 学習者は自分の学習記録をあとで振り返るために使用する。
- ・ スタッフは教案作成や報告書作成、振り返りのために使用する。
- ・ レイアウトや中身の書き方次第では団体の外部の人も見られる事例集にしたり、教師が使う教材としても活用できるのでは。
- ・ 対話活動中に記録したキーワードの分析などにも活用できる。
- ・ テキストデータだけでなく、音声、画像などあらゆるものを取り込めるようにする。実データでは重くなるのでネット上のリンクを記録できるようにもする。

- ・開発用ソフトは「FileMaker Pro 12」。
- ・利用者は、iPad・iPhone用ソフト「FileMaker Go」（バージョン12以上）をダウンロードしたうえで、本団体のサイトなどからデータベースのデータを入手して使用。

▼委員からの意見

- ・高機能で万能なものではなく、誰のための、何のためのかをもっと絞るべきでは。
- ・記録をつけることでどのようなメリットがあるかを明らかにし、記録をきちんと管理することの啓蒙になるものにすればいい。
- ・データの共有方法が問題。個々の利用者がデータをアップするのは技術的に難しい。

▼コーディネーターが残している記録はどのようなものか

多文化共生社会をめざす会とよた日本語学習支援システムのコーディネーターや学習者が残す活動記録がどのようになっているか実物を見ながら確認。



■日本語教室活動記録データベースアプリ開発委員会 第2回

日時：2013年9月12日（木）13：00～15：00 場所：豊田産業文化センター

ブログ記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/09/12/6651>

▼開発委員からの発表

前回の委員会では、「こんなデータベースがあったらいい」というアイデアを次の委員会までに考えてきてもらうよう委員に依頼していた。その発表を発表してもらい、意見交換をした。

★コーディネータ向けで、あったらいいと思うものとして、活動の流れが分かるもの、モデル文、学習者の成果物、ワークシート、報告書のテーマ別検索、学習者個人のポートフォリオ。

★教室を担当するボランティアに質問して得た回答では、現在ある便利なソフト・サービスも知らない。または、知っているも使い方を知らない、あるいは、パソコンやiPadなどが無いから使わないということのよう。つまり、苦労して使ったからといって劇的な成果が期待できなければ使わない。おのずと活用できる人は限定されるので、ターゲットを絞るべき。

★コーディネータの立場としては、これから行うテーマに沿った活動例を探すときに利用できれば便利。

★学習者としては自分の上達度や変化が目に見えて分かればよいのではないか。学習者が活動の中で使った表現を記録し、実際の生活の場面で必要なときにスマホなどのメモを見ながら活用できるものがあるとよい。

★対話型活動のなかで学習者自身が注意すべき観点を意識化することで、達成感が得られやすくなるはず。その観点を挙げておいて活動後にチェックすれば、振り返りのときの分析もしやすくなるし、データベースへの入力自体が活動そのものの改善にもつながるのではないか。観点の設定が重要であり、困難。ただし、教室の目指すところがはっきりしていれば、観点もおのずと決まってくる。

るはず。

★教室を新規に開設する人が利用できるもの。参加者の生の声や、どんな教材を使用しているかを知ることができれば参考になるのでは。

★教室（教室+教材に分けることもできる）、学習者、パートナー、プログラムコーディネータ各々個別のデータを入力できるもの。

★一般的な教室型活動で教科書の各項目でよく使用される語彙や表現の傾向があるように、対話型活動では付せんに書くキーワードにもテーマごとに傾向が現れるのではないかと。データベースによってその傾向が明らかになり、その後の活動に活かせる。

▼方向性の決定

とりあえず、今回の取組で作るべきものの対象者と内容を絞り込んだ。対象はコーディネーターで、記録する内容は、教室活動の改善のために振り返って分析できるデータとした。委員からは、対象者が対話型活動のコーディネータに限定されるのではという意見も出たが、カスタマイズできる項目を増やせば、幅広い教室のコーディネーターが利用できるはずである。

次回までに試作版を作成し、Dropbox リンクでも進み具合が確認できるようにすることになった。

今回、委員からは対象者も目的も異なる様々なアイデアが出たが、今後様々なアプリを作るときに参考になるとと思われる。



データベースの画面

▼ホーム



▼記録素材



▼活動一覧



▼活動概要(画面1)



▼活動概要(画面2)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・ 本団体の教室と開発委員が所属する教室の活動記録でどのような項目をどのようにして保存しスタッフで共有しているか情報交換が出来た。
- ・ 委員会で地域のボランティア教室での話から、記録を取ることの意識、記録の内容、またそもそも記録を取っているかどうか等にかかなり差があることが分かった。本アプリは、記録を活かすことの有効性を訴える事例になる。
- ・ 完成版というレベルではないが、取組2の日本語教室で実施している活動内容を記録できる機能を備えたアプリをつくることができた。
- ・ プログラムが組めなくても FileMaker Pro の入門書で学べば比較的簡単にアプリが作成できる。データベースを作成するにはまだ敷居が高いとしても、本取組で作成したようなデータベースに触れ、記録するのは難しくない。こういった IT 技術がもっと地域で活用されることが期待できる。

(10) 改善点について

- ・ データベースを動作させる無料アプリ FileMakerGo は iPad/iPhone 専用であるため、Android 端末やパソコンでは利用できない。地域の日本語関係者の聞き取りでは、iPad の利用者はそれほど多くなく、データベースをダウンロードして試してもらえない人も多かった。いくつかの解決策はあるが高額で解決が難しい。
- ・ iPad 利用者の少なさもあるが、データベースの発表会などを独自に開催することは市内の団体の取組の多さから断念した。今後も外部の展示や発表の機会を利用していく。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ・ 外国人児童生徒支援との連携で、外国人保護者を日本語教室に受け入れる体制づくり。
- ・ 相互理解をめざした対話型日本語教育の推進。
- ・ 生活や仕事、子育て、子どもの教育に関するテーマで対話することで生活者としての外国人の課題を引き出す。
- ・ 外国人が理解しやすい「やさしいにほんご」を、地域の日本人と外国人と一緒に考え多文化共生への意識を高める。
- ・ 日本語教室とやさしい日本語講座の成果を交流イベント等で効果的に発揮させる。
- ・ IT 機器を利用した多目的に活用できる日本語教育活動記録アプリの開発。

(2) 事業目的の達成状況

- ・ 外国人児童生徒の学習支援を他の補助金事業を利用して併設し、子どもと一緒に外国人保護者を受け入れやすい体制をつくることができた。※出席名簿より：全 31 人の学習者のうち 12 名 (38.7%) が子どもと一緒に教室に来た。

- ・ 拠点を移して教室を開設し、実施期間も短かったので、参加者の相互理解が深まったとまでは言えない。しかし、アンケートの結果では多くの参加者がみんなとの対話交流を楽しかったと答えた。教室で出会った学習者同士で仲良くなった人たちもいる。※アンケートを参照。
- ・ 対話型日本語教育の推進については、外部団体の2つのボランティア講座で本取組の事例発表を行った。それに関連して、取組2と同様の内容で別曜日に実施している本団体の教室でその1つの講座の受講生らを視察参加者として受け入れ、活動を体験してもらい、同講座の実習に活かしてもらった。また、取組2・3では、県外・市外からの大学生・大学院生の見学参加も受け入れ、それぞれでテーマにしていることの参考にしてもらった。

※事例発表1（10月12日@三島市）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/10/12/5802>※事例発表2（1月12日@浜松市）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2014/01/26/6323>※視察参加受入の様子（10月20日）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/10/20/5813>

- ・ 期間の後半で特に子育てや仕事などの問題に踏み込んだテーマで実施することが多かったが、そういった情報が特に必要であるはずの学習者に限って、たまたまその回を欠席する機会が多かったことが悔やまれる。しかし、参加した学習者からの評価はよかった。学習者を交えた問題分析などでも自分たちの課題を引き出すことができた。

※本報告書、取組2「取組の具体的内容」、アンケートを参照。

※取組1「学習者を交えた問題分析」：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/11/19/6595>

- ・ やさしい日本語講座は日本人参加者に自分の日本語、やさしい日本語について気づきを生むことができた。外国人と日本人の共同作業によるワークショップという特色ある講座の事例をつくることができた。

※取組3講座全3回の記事：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/tag/p10-03>

- ・ 交流イベントは本取組の成果を活かしたとは言えない。反省を踏まえて再度挑戦もしたが準備が十分ではなかった。教室活動にイベントの準備の内容を含めるなどするべきだった。余裕を持って再挑戦したい。しかし、取組1の日本人受講者4名が交流会に参加する流れは作ることができた。

※交流イベント1（12月21日）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/12/21/6033>
：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2013/12/21/6044>

※交流イベント2（3月16日）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2014/03/16/6526>

- ・ 日本語教育活動記録データベースは実用的な機能を備えたバージョンまで作ることができ、今後も開発を継続させる。外部のイベントや例会で紹介することができ、コーディネーターからの評価はよかった。しかし、iPad専用であることと記録する用途では利用者の敷居が高いため、普及をめざすのは難しい。それでも、日本語教室におけるデータベースの可能性を示す例としてはアピールできる。

※パネル発表（1月13日@静岡市）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2014/01/13/6363>

※外部例会（2月8日@三島市）：<http://tabunkadonguri.sitemix.jp/blog/2014/02/08/6233>

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・ 取組2・3では浜松市の外国人集住地区のひとつである佐鳴台に新しい日本語学習の場、多文化共生について学ぶ場を築き、他事業で交流イベントなども実施しながら小さいながらも人の輪をつくることができた。※12月21日の交流会では参加者60名、3月16日の交流会では参加者28名。

- ・ 取組 3 について facebook の地域情報グループで広報したことで募集情報を知って講座に参加した日本人がいた。また、同様に facebook で情報を知って活動に興味を持って連絡をしてきた外国人もいた。多文化共生に関する取組は一般の人にはあまり知られていないので、こういった情報チャンネルの開拓ができたことは大きい。
- ・ 取組 1・2・3 においては翻訳に加えて、今年度から初めて学習補助者、託児、委員としての会議参加に外国人スタッフを起用して、これまで勉強してきた日本語力を活かす場を提供できた。外国人スタッフの活躍はこれからの学習者の目標、励みになる。
- ・ 取組 4 は、タブレット端末用のアプリ開発ということで、この地域に多数ある日本語教育事業では前例がない特色を出すことができた。今後の本団体の強みとしても活かせる。開発にあたって県外の協力団体との情報交換もできた。
- ・ 全取組に関して、本団体のブログサイト「たぶんかどんぐり」(<http://tabunkadonguri.sitemix.jp>) で、写真付きで詳細に各取組の内容を紹介してきた（執筆作業は事業対象外）。事業の委託を受けた我々は国のお金で地域のために外国人・日本人を含めた日本語教育事業を行っているの、その取組は団体内のみならず地域・市県外でも広く共有されるべきという考えでブログを書いていた。進行中の取組の記事を読んで興味を持ってもらい、参加申込や問い合わせがあったケースもある。本事業が始まってからブログのアクセス数は平均で月間 1,200 ページほどになってきた。事業の成果は積極的に地域に還元している。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

- ・ 市内には文化庁の委託事業で日本語教育事業を実施している団体が多数あり、日系人就業準備研修事業の日本語教室も開催場所やクラスの数が充実している。その他にも小さな教室は多数あるので、この地域で外国人学習者を広く集めることは難しい。
- ・ 教室だけでなく、人材育成や日本人市民向けの講座や文化庁事業やその他の多文化関連のイベントも市内では頻繁にあり、他と重ならない講座の開催日を決めるのが難しい。
- ・ 対話型活動に理解があり、実践していこうという人材の確保が進まない。団体内では少ないスタッフが仕事や家庭の都合の合間を縫ってやっと回している状態で余裕がない。
- ・ 取組の数と実施スケジュールの過密さから、団体の全ての取組を通して事前の打ち合わせや振り返りが十分できたとはいえない。本団体は親子支援を重視しているの、大人向けの事業だけで負担が増すと子ども支援のことに力を注げなくなってしまう。
- ・ 災害時の情報伝達のためのやさしい日本語は東日本大震災後、認知度が加速的に増した感があるが、その一方で日常の市民誰もが実践できるコミュニケーションのためのやさしい日本語はまだ全国でも実践例が少ない。参考にできる取組を探している。

ii 今後の課題

- ・ 浜松では多くの日本語教室が無料で実施しているため、委託事業に頼らずに自主事業で有料の教室を実施すると学習者集めは今以上に一層不利になってしまう。
- ・ 他の取組との違いをより明確にし、学習や交流の満足を実感できる教室や特色ある講座を計画し、それを広く伝えていく必要がある。日本語教室は対話を重視する路線以外にも幅広く学習ニーズを拾っていかねばいけないかもしれない。
- ・ 外国人が多く暮らしている地域だからこそ、日本語ができなくても生活できるというという実態もある。しかし、大人はそれでよくても子ども達がそういった家庭環境で不利益を被っているケースもある。学習

者の呼び込みには、家族を含めて親身に相談にのれる外国人スタッフの協力が不可欠。特にブラジル人はこの地域に最も多く暮らしているので、ブラジル人スタッフの確保は急務。

- ・ 学習者のニーズはあるので最低でも今年度規模のスタッフ数は確保したい。また、これからの世代の人たちに対話型活動を伝えるためにも新規スタッフの確保が必要。
- ・ 学習者がより達成感を得られるための、学習内容・手法、評価方法の見直しが必要。

iii 今後の活動予定

- ・ 日本語教室は市の補助金事業を活用して子ども支援と並行して親子教室として継続。しかし、資金やスタッフ不足のため大幅に規模・回数を縮小せざるを得ない。
- ・ やさしい日本語講座は年度内2回程度で補助金事業で実施。
- ・ ブログ記事は活発に更新をしているが、日本人・外国人双方により効果的に伝えるために facebook ページの作成を検討中。
- ・ アプリ開発は活動記録のものは改良を続け、より幅広い層が使える内容で iPhone 版アプリも作っていく。外国人は iPhone の所有率が高いので学習者向けのニーズを探る。

(5) その他参考資料

■アンケート（取組２：対話型日本語教室）

Q①：よかったテーマはなんですか。3つ書いて下さい。

仕事：4人、子どものしつけ：2人、食べ物：2人、ストレス：2人、大人になるまで：1人、子どもと一緒にいくところ：1人、節約：1人、家事：1人、病院：1人、地震・災害：1人

Q②：この教室でよかったことは何ですか。

- ・ みんなと話して楽しかった … 8人
- ・ 言葉（単語）を覚えた … 7人
- ・ 生活のことでいろいろなことがわかった … 7人
- ・ 日本語で話す練習になった … 6人
- ・ 他の人のことが少しわかった … 6人
- ・ ひらがな・カタカナを書く練習になった … 5人
- ・ 日本語で文を書く練習になった … 5人
- ・ 勉強以外のことも相談できた … 4人
- ・ 子どもと一緒に来て勉強できた … 3人
- ・ ひらがな・かたかたを読む練習になった … 2人

Q③：この教室で困った・よくなかったことは何ですか。

- ・ 日本語で言えないときがあった … 8人
- ・ 日本語が分からないときがあった … 6人
- ・ 日本語で文を書くのが難しかった … 5人
- ・ いろいろ勉強したけれども忘れてしまった … 5人
- ・ ひらがな・カタカナが読めないときがあった… 3人
- ・ 教室に来るのが大変だった（いそがしい、ねむい） … 3人
- ・ ひらがな・カタカナが書けないときがあった… 2人

Q④：これから日本語でもっと勉強したいことや、話したいことは何ですか。

- ・ 生活の難しいこと（保険／税金／年金など） … 8人
- ・ 仕事 … 6人
- ・ 健康 … 5人
- ・ 将来のこと … 5人
- ・ 買い物、お店 … 5人
- ・ 日本語の試験（JLPT） … 5人
- ・ 子どものこと … 3人
- ・ 料理、レストラン … 3人
- ・ 自分の国のこと（文化、ふるさと） … 3人
- ・ 昔の思い出（楽しかったこと） … 3人

Q⑤：この教室でなるべく日本語で話すように気をつけましたか。

よく気をつけた ← A…4人 B…0人 C…2人 D…0人 E…3人 → 忘れた

Q⑥：この教室で言いたいことが日本語で話せましたか。

たくさん話せた ← A…2人 B…2人 C…2人 D…1人 E…2人 → 話せなかった

Q⑦：この教室で日本人じゃない他の国の人と話せましたか。

たくさん話せた ← A…1人 B…1人 C…3人 D…2人 E…2人 → 話せなかった

■感想・振り返り（取組3：やさしい日本語講座）

<第1回>

▼日本人参加者

- ・ コロケーションをいくつか例をあげることができるように、普段から気をつけていないといけないと再認識しました。対話の中で理解できるように、場面場面で言い換え・説明の仕方が違うこと。その単語だけ取りあげての説明はかえってわかりにくいこと、会話は生き物であることを勉強させて頂きました。
- ・ 先生の解説がとっても面白かったです。たくさん気づきがありました。無理して言い換えをするより、「実物を見せる」もOKなのだな〜と。「おしゃべりが弾むこと」を優先させるという配慮になるほど！と思いました。「アイロンをかける」言い回しでは決まった動詞があること、オノマトペの説明はニュアンスが難しいこと、同じ単語でも文脈によって意味が全く違うこと（カリカリ、かける）、改めて、日本語って難しい〜〜と思いました。非ネイティブは大変だ！
- ・ なるべく簡単な言葉で話そうとしていましたが、「泳ぐ」などの基本的な表現でも伝わらないことがあり、やさしいにほんごの難しさを再確認しました。言い換えと例を一緒に出すと分かりやすいということ学びました。今後、言葉の説明をするときには、言い換えと例をセットで出そうと思います。

- ・ 今まで気にして来なかった日本語について考えることで、こうしたら説明できる！というアイデアを知ることができました。写真で説明したり、言葉で説明したり、その言葉の意味を知るためのツールはいろいろあるのだと知りました。
- ・ (今回のテーマだった)「苦手なもの」の説明で忘れていた言葉など思い出して楽しかったです。日頃は試験問題などばかりしていましたが雑談の広がり面白さを感じました。

▼外国人参加者（日本語訳）

- ・ グループで新しい言葉や、正しく動詞を使いながら文の構成（構文）を勉強しました。（難しい日本語の）意味を教えるのに、写真やゼスチャー、絵などを介する必要がある場合があります。
- ・ とても楽しい教室でした。新しい言葉も覚えました。あんなにたくさんの人と日本語で話したのは初めてのことでした。
- ・ 今日のテーマについて私たちの会話の中でたくさんの知らない言葉を学びました。グループの人たちと会話を楽しめました。

<第2回>

▼日本人参加者

- ・ 初めて参加させて頂き、とても楽しく、そしてとても勉強になりました。外国人に対して日本語を教える際、どうしても日本語が持つ特徴を奥深く説明しなければいけないのかなと思っていました。しかし、楽しく外国人の方々と会話をする上では不必要なことであることに気がつきました。
- ・ 参加して貴重な体験をさせて頂きました。また年代も幅広い方たちが集まっていたので、とても楽しくおしゃべりすることができました。日本語以外堪能ではないので私も外国語を学ぶことを怠らずにしていきたいと思います。また機会があったら参加したいです。
- ・ 大学にいと 同じ日本語学習者でも、日常的に日本語を学ぶ時間があつて、資格なども持っている人ばかりとしか話す機会がないので、今日は自分がどれだけコミュニケーションで楽をさせてもらっていたのかよくわかりました。しかし、意味を正確に伝えるのではなく、相手との会話がスムーズに進むようにすることを優先するべきだということをお話頂きました。少し肩の力が抜けたような気がしました。
- ・ 「コミュニケーションを成立させるためには日本語を意識する」というお話が印象に残りました。
- ・ 普段使っている言葉が外国の方達に難しいかわかったと思います。また、分かりやすく説明することも大変であることを改めて認識しました。
- ・ ワークショップと振り返りの時間配分が分かりやすい講座でした。後半、先生が口頭でおっしゃっている講評は大切な指摘が多く含まれていると感じました。箇条書きのような議事・資料があればと思います。外国語の視点を持っている方がよいと思います。
- ・ ほぼ初めてのやり方の講座で、少し頭も回らずでしたが、楽しい2時間でした。先生のお話をもっと聞きたい感じがだったので、次回も参加できればと思います。
- ・ 日本語がよく分からない人たちとだったので通訳入りで話はずまなく少し苦しく思った。係の人が外国人に説明してしまって、他の日本人があまりすすんで発言できなかった（最初は）。1対1でも2～3人でも通訳なしでもよいのでは。
- ・ 日本語がむずかしいことを実感した。
- ・ 色々と企画してやられていることは全く異論はありません。

▼外国人参加者（日本語は原文まま）

- ・ あたらしいことばおぼえました。たのしかったです。
- ・ 自分もべんきょうになりました。とてもよかったです。

<第3回>

▼日本人参加者

- ・ テーマが元気になる料理でしたが、外国人の方々はとても興味があったようで、次々と色々な料理が出てきました。日本人も言ったには言ったが、結構自分たちの言いたいことがたくさんあって、それらについて日本人がきくということが多かった。スペイン語、フィリピン語のできる人がいて、ついその母語で話してしまうという場面もあった。十分やさしい（わかりやすい）日本語で相互理解できたか次回の課題でもあります。
- ・ 自分で簡単と思っていた日本語が意外と「わからない」ものであること、一緒にやってみないと気付かないので勉強になりました。会話をとぎれさせないため、使わないで済む単語は使わない、始めから置き換えること。
- ・ 話し合っはじめてわかることがたくさんありました。自分ではやさしいことばで話しているつもりでも、付せん書き出してやさしいことばにおきかえようとすると難しかったです。ペルー人の男性の意見がとても参考になりました。初対面の外国人の方とやさしいことばで話す難しさを実感しました。
- ・ 何気なく使っている日本語は実は難しいものであったことを再認識しました。敬語、受け身、使役、オノマトペを使用しないよう意識せねばならないと思いました。
- ・ 外国の方が日本語を勉強するのと同様に外国の方と接する日本人が勉強して意識して接する必要があるのだと感じた。仕事の世界も新しい方が入ってくる時に仕事の教え方で感違いや伝わらないこともあるので、日本人同士でもコミュニケーションは難しいと思った。

▼外国人参加者（日本語は原文まま）

- ・ 日本語の会が楽しかったのでまた時間が有る時に参加する予定です。ほぼ土日は仕事があつて来られるのがちょっと分かりませんが、今朝のちょっとした笑顔が出来て良かったです。とにかく有難いです。
- ・ 日本の文化はまだまだおぼえることがたくさんあるということが、あらためて気付きました。まだまだ勉強を続ける気持ちです。

取組2 対話型日本語教室 スペイン語版



2013年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

にほんご かいわ きょうしつ 「にほんごどんぐり」
CURSO DE JAPONES INTERACTIVO
NIHONGO DONGURI
@ SANARUDAI



Vamos a aprender el japonés de una manera divertida conversando sobre temas cotidianos de la vida, como la salud, los hijos, etc...
Dependiendo de su nivel pueden estudiar los caracteres japoneses, HIRAGANA, KATAKANA o KANJI básico.
Vengan a la clase cuando puedan, tenemos las aulas abiertas hasta marzo del 2014.

DOMINGO 10:00-12:00 GRATIS

ENERO		FEBRERO			MARZO			
19	26	2	9	16	23	2	9	16

Enseñamos las asignaturas de escuela a los niños que vengan a la clase con ustedes, también tenemos las clases de español para ellos.
*Los niños traigan los materiales para estudiar.
Si quieren traer a sus hijos pequeños consulten por favor.



SANARUDAI KYOUDOU CENTER (SANARUDAI KOMINKAN)
HAMAMATSU-SHI, NAKA-KU, SANARUDAI 2-24-1
TEL: 053-447-4974



主催：浜松国際交流協会(HICE/ハイス)

BLOG <http://tabunkadonguri.sitemix.jp>

TABUNKA DONGURI **検索**

TEL:

主催：多文化共生社会をめざす会「たぶんかどんぐり」(TABUNKA DONGURI)

取組2 対話型日本語教室 タガログ語版



2013年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

にほんご かいわ きょうしつ 「にほんごどんぐり」
"Pag-aaral sa pakikipag-usap ng wikang hapon" Japanese Conversation Class
NIHONGO DONGURI
@ SANARUDAI



Pamumuhay, kalusugan, mga bagay na may kaugnayan sa pag-aaral ng inyong anak. Klase ng masayang pakikipag-kwentuhan habang natutunan ang wikang hapon. Ibase depende sa kaalaman, hiragana at katakana. Pag-aaralan din ang kanji na palaging ginagamit sa pamumuhay.
Maari po kayong pumunta kung kailan kayo may oras.

LINGGO 10:00-12:00 FREE(¥0)

JAN		FEB			MAR			
19	26	2	9	16	23	2	9	16

Pag-aaral ng mga bata na kasama ang ama o ina ay animing din itingnan.
*Dalhin lamang ang aklat at notebook sa pag-aaral



SANARUDAI KYOUDOU CENTER (SANARUDAI KOMINKAN)
HAMAMATSU-SHI, NAKA-KU, SANARUDAI 2-24-1
TEL: 053-447-4974



主催：浜松国際交流協会(HICE/ハイス)

BLOG <http://tabunkadonguri.sitemix.jp>

TABUNKA DONGURI **検索**

TEL:

主催：多文化共生社会をめざす会「たぶんかどんぐり」(TABUNKA DONGURI)

取組1 対話型日本語教室 ポルトガル語版



2013年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

にほんご かいわ きょうしつ 「にほんごどんぐり」
CURSO DE JAPONES - CONVERSAÇÃO
NIHONGO DONGURI
@ SANARUDAI



Vamos aprender a língua japonesa de maneira descontraída, conversando sobre as situações do dia a dia, saúde, crianças, etc...
Aprendizado de hiragana, katakana e kanjis básicos, conforme necessidade.
Venham participar em quaisquer dos dias disponíveis.

DOMINGO 10:00-12:00 TAXA: GRATUITO

JANEIRO		FEVEREIRO			MARÇO			
19	26	2	9	16	23	2	9	16

Auxiliamos, também, no estudo das crianças que queiram acompanhar os pais.
*Neste caso, solicitamos trazer o material de estudo.



SANARUDAI KYOUDOU CENTER (SANARUDAI KOMINKAN)
HAMAMATSU-SHI, NAKA-KU, SANARUDAI 2-24-1
TEL: 053-447-4974



主催：浜松国際交流協会(HICE/ハイス)

BLOG <http://tabunkadonguri.sitemix.jp>

TABUNKA DONGURI **検索**

E-MAIL: TEL:

主催：多文化共生社会をめざす会「たぶんかどんぐり」

取組3 やさしい日本語講座



2013年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

外国人とのおしゃべりのための
やさしいにほんご講座
日本人参加者募集

いま、外国人に通じやすい日本語「やさしい日本語」が注目されています。災害や学校などの情報伝達において、多くの外国人にも理解しやすい簡単な日本語で伝える工夫が全国の市町で検討されています。一方、情報発信者ではない私たち一般の市民にも普段からできることはないでしょうか。
この講座は地域に暮らす外国人のみならず一緒に気楽なおしゃべりを通して、私たちの話す日本語がいかに難しいか、どうすれば相手に合わせて日本語を伝わりやすくできるか、みなさんと一緒に考えてみる講座です。ぜひお申し込みください。



2014年 3月9日 (日曜) 10:00-12:00

定員：外国人15名・日本人15名 受講料：無料

講師：横内美保子 (南山大学総合政策学部 准教授)

<要申し込み>



ブログ <http://tabunkadonguri.sitemix.jp>

たぶんかどんぐり **検索**

主催：多文化共生社会をめざす会「たぶんかどんぐり」

■ アンケート

<p style="text-align: center;">取組2 対話型日本語教室 スペイン語版(おもて)</p> <p style="text-align: right;">nombre : _____</p> <p style="text-align: center;">ENCUESTA SOBRE EL CURSO DE JAPONÉS EN SANARUDAI (2013-08~2014-03)</p> <p>① ¿Cuáles son los mejores temas? Escriba los 3 temas.</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>② ¿Qué fue lo bueno de este curso que acaba de concluir?</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>1 Fue divertida la conversación con todos, 2 Aprendió las palabras japonesas, 3 Practicó leer las letras.HIRAGANA y KATAKANA, 4 Practicó escribir las letras.HIRAGANA y KATAKANA, 5 Practicó hablar en japonés, 6 Practicó hacer las frases en japonés, 7 Aprendió muchas cosas de la vida japonesa, 8 Conoció a otros alumnos conversando de sus gustos,sus opiniones y su vida, 9 Pudo consultar sobre los asuntos fuera de la clase, 10 Pudo ir a la clase con sus hijos a estudiar.</p> <p>③ ¿Qué fue lo malo de este curso? ¿Hubo algún problema?</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>1 De vez en cuando no entendí bien el japonés, 2 De vez en cuando no pudo hablar bien japonés, 3 De vez en cuando no pudo escribir las letras, HIRANAGA y KATAKANA, 4 De vez en cuando no pudo leer las letras, HIRANAGA y KATAKANA, 5 Fue difícil hacer las frases en japonés, 6 Fue muy costoso ir a la clase por el cansancio y el sueño, 7 Aunque ha tomado mucho tiempo para estudiar, se ha olvidado muchas cosas que aprendió.</p>	<p style="text-align: center;">取組2 対話型日本語教室 スペイン語版(うら)</p> <p>④ ¿De qué tema quiere aprender y hablar en japonés?</p> <p>_____</p> <p>1 De los hijos:de su colegio,de su futuro 2 De salud 3 Del trabajo 4 Del futuro:de la vejez 5 De las cosas complicadas de la vida:de los seguros, de los impuestos, de las pensiones y de las leyes, 6 De la compra y las tiendas 7 De la cocina y los restaurantes 8 Del país natal:de la cultura y de la ciudad natal 9 De los recuerdos pasados:de los buenos 10 Del examen del japonés: JLPT N5, 4, 3, 2</p> <p>⑤ ¿Intentó hablar en japonés lo más posible en esta clase? no mucho← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) →mucho</p> <p>⑥ ¿Pudo expresar en japonés de sus opiniones que quiso hablar? no mucho← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) →mucho</p> <p>⑦ ¿Pudo conversar mucho con la gente de los otros países? no mucho← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) →mucho</p> <p>⑧ ¿Normalmente tiene ocasiones de hablar con la gente de los otros países? no mucho← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) →mucho</p> <p>⑨ ¿Normalmente tiene ocasiones de hablar con los japoneses? no mucho← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) →mucho</p> <p>⑩ ¿Normalmente con quién habla japonés?</p> <p>1 Con su esposo o esposa 2 Con sus hijos 3 Con los vecinos 4 Con los profesores del colegio 5 Con los profesores de japonés 6 Con la gente del trabajo 7 Con otros:→ _____</p> <p>⑪ ¿Cuál es el mejor día y el horario para el curso japonés? Marque abajo,</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>lunes</th> <th>martes</th> <th>miércoles</th> <th>jueves</th> <th>viernes</th> <th>sábado</th> <th>domingo</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>de las 10 a las 12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>de las 2 a las 4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>de las 7 a las 9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		lunes	martes	miércoles	jueves	viernes	sábado	domingo	de las 10 a las 12								de las 2 a las 4								de las 7 a las 9							
	lunes	martes	miércoles	jueves	viernes	sábado	domingo																										
de las 10 a las 12																																	
de las 2 a las 4																																	
de las 7 a las 9																																	
<p style="text-align: center;">取組2 対話型日本語教室 タガログ語版(おもて)</p> <p style="text-align: right;">Pangalan : _____</p> <p style="text-align: center;">SANARUDAI JAPANESE CLASS QUESTIONNAIRE (2013-08~2014-03)</p> <p>① Ano ang naging mabuti o magandang paksa? Mangyaring sumulat ng tatlo.</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>② Ano ang mabuting bagay sa klase na ito?</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>1 : Napakasya ang pakikipag-usap sa lahat, 2 : Natuto ng mga salita, 3 : Nasanay sa pagbabasa ng hiragana at katakana, 4 : Nasanay ng pagsusulat ng hiragana at katakana, 5 : Nasanay sa pagsasalita ng nihongo o wikang hapon, 6 : Nasanay sa pagsusulat ng pangungusap sa wikang hapon, 7 : Maraming bagay akong nalaman tungkol sa pamumuhay, 8 : May nalaman akong kaunting bagay sa ibang tao (gustong bagay/pagkain,pag-iisip,pamumuhay) 9 : Nakakahingi din ng payo maliban sa pag-aaral, 10 : Nakapag-aral din ang anak kapag kasamang pumasok.</p> <p>③ Ano ang hindi mabuti at naging problema sa klase na ito?</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>1 : May pagkakataon na hindi ko maintindihan ang wikang hapon o nihongo, 2 : May pagkakataon na hindi ko masabi sa wikang hapon, 3 : May pagkakataon na hindi ko maisulat ang hiragana at katakana, 4 : May pagkakataon na hindi ko mabasa ang hiragana at katakana, 5 : Mahirap ang pagsusulat ng pangungusap sa wikang hapon, 6 : Nahirapan ako sa pagpunta ng klase (busy / abala, inaantok) 7 : Maraming klase ang napag-aralan pero nakalimutan ko na.</p>	<p style="text-align: center;">取組2 対話型日本語教室 タガログ語版(うら)</p> <p>④ Ano ang gusto mong pag-aralan at pag-usapang paksa mula ngayon.</p> <p>_____</p> <p>1 : Tungkol sa mga bata (Paaralan, kinabukasan) 2 : Kalusugan 3 : Trabaho 4 : Tungkol sa kinabukasan (kapag tumanda na) 5 : Tungkol sa mahihirap na bagay ng pamumuhay (insurance, tax, pension, batas) 6 : Pamimili, tindahan 7 : Pag-luluto, restoran 8 : Tungkol sa sariling bansa (kultura, home town) 9 : Lumang mga alaala o old memories 10 : Japanese test (JLPT N5, N4, N3, N2)</p> <p>⑤ Sa klase na ito ay nakapag-ingat ka ba na kung maari ay wikang hapon sana ang ginamit mong salita? Nakalimutan ← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) → nag-ingat mabuti</p> <p>⑥ Sa klase na ito ay nasabi mo ba ang gusto mong sabihin sa wikang hapon? hindi gaanong nakapagsalita ← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) → nakapagsalita nang marami</p> <p>⑦ Sa klase na ito ay nakipag-usap ka ba sa hindi Hapon, taga ibang bansa? Hindi gaanong nakipag-usap ← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) → nakipag-usap ng marami</p> <p>⑧ Sa karaniwan, may pagkakataon ka ba na nakipag-usap sa hindi Hapon, taga ibang bansa? Halos wala ← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) → madalas meron</p> <p>⑨ Sa karaniwan, may pagkakataon ka ba na makipag-usap sa Hapon o Nihonjin? Halos wala ← (1 · 2 · 3 · 4 · 5) → madalas meron</p> <p>⑩ Karaniwan,sino ang kausap mo ng wikang hapon o nihongo? ※kahit ilan OK</p> <p>1 : husband, wife 2 : anak 3 : kapitbahay 4 : guro ng anak sa paaralan 5 : guro sa Japanese class 6 : mga tao ng kumpanya 7 : at iba pa → _____</p> <p>⑪ Kailan mo gustong gawin ang Japanese class? Mangyaring paki- bilugan ang nakasulat sa ibaba.</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Lunes</th> <th>Martes</th> <th>Miyerkules</th> <th>Huwebes</th> <th>Biyernes</th> <th>Sabado</th> <th>Linggo</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10:00a.m.-12 noon</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2:00 p.m.-4:00 p.m.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7:00 p.m.-9:00 p.m.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		Lunes	Martes	Miyerkules	Huwebes	Biyernes	Sabado	Linggo	10:00a.m.-12 noon								2:00 p.m.-4:00 p.m.								7:00 p.m.-9:00 p.m.							
	Lunes	Martes	Miyerkules	Huwebes	Biyernes	Sabado	Linggo																										
10:00a.m.-12 noon																																	
2:00 p.m.-4:00 p.m.																																	
7:00 p.m.-9:00 p.m.																																	

